|  |
| --- |
| ■事業の背景  「大阪府子どもの生活に関する実態調査」において、経済的に困窮している家庭ほど、経済的な理由で子どもに本や絵本を買うことをあきらめた経験が多く、図書館に行く等の文化活動の機会がない傾向にあり、また、読書についても、経済的に困窮している家庭の子どもほどまったくしないと回答した割合が高い。以上のことから、経済格差が子どもの読書活動の機会の格差につながっていることが明らかになっている。  ■これまでの取組み  平成29年度において、子育て支援関係者向けの研修を行った。また、保護者や子育て支援関係者が活用できるブックリストを作成し、ホームページ上で公開した。  また、子どもの読書の意義や読み聞かせの効果などを記載した保護者向け普及啓発冊子、ブックリストの活用法や指導法について記載した支援者向け普及啓発ブックレットを作成、配布。 |

資料８

図書館資源を活用した困難地域等における読書・学習機会提供事業

平成30年度では、平成29年度に作成したブックリスト・支援手法を広く普及・啓発することで、困難を抱えた親子の読書・学習機会の拡大を目指す。

平成29年度　ブックリストの作成

１．社会教育委員会議

各種事業の内容等について、事業開始前に社会教育委員の意見を伺い、事業に反映するとともに、事業終了後に報告を行う。

２．ブックリストの活用法・指導法の啓発　　(９月下旬)

　　　困難を抱えた親子と直接的に接することの多い子育て支援関係者（こども食堂のボランティア、放課後児童クラブの関係者など）を対象に、平成29年度に作成・公表したブックリストの活用法について広く周知するため、ブックリストの活用法、読書の意義などについての講習会を開催する。

３．子育て支援関係者への支援(１０～１１月頃)

困難を抱える子どもの読書環境の充実を図るために、子育て支援関係者がブックリスト等を活用した支援手法について実践形式で学び、所属する施設等で自ら実施できるよう研修を実施する。

①　読書活動支援研修(１回)

　　読み聞かせ、読書へのアニマシオン等の、読書が苦手な子どもも楽しめる読書手法の研修

②　えほんのひろば研修(講義・面展台作成　各１回)

　　　　　えほんのひろばの手法、子どもとの関わり方、会場の設営、面展台の作成等の研修

**年間を通じた実践**

[期待される成果]

困難を抱える親子の読書・学習機会を拡大することにより、読書格差の負の連鎖を断ち切り、府内で読書が好きな子どもの割合を増やす。

**講習会や研修に参加した子育て支援関係者が活動する現場での「えほんのひろば」の実施(３か所)の支援**

４．実践事例・経験等の共有　(平成31年１～２月頃)

子育て支援関係者及び学校関係者を対象に、これまでの成果や課題を共有し、読書・学習機会のより効果的な拡大を図るために、経済格差等の困難と読書をテーマとした講演や、ブックリスト等を活用した支援手法の実践報告、施設での取り組み等の交流を行う会合を開催する。